

よこはま夢ファンドの寄附の新たな活用について【事務局案】

協議事項1：希望寄附分野の統合について

現在、活用方法が決まっていない分野希望寄附については、寄附者の意向を尊重し、活用していただけるように、分野を一定程度統合し、スケールメリットを活かした事業を検討し、実施したいと考えます。

- ・ 夢ファンド設立時の経緯でお示ししたとおり、国税庁と①団体希望寄附、②分野希望寄附、③希望なし寄附、という3つの項目から寄附者が選択できる仕組みをつくることで、夢ファンドにふるさと納税制度を活用できると決着した経緯があることから、3つの選択肢から1つを削ることは出来ないと考えます。
- ・ ①団体希望寄附は、登録団体による助成金申請に対し、審査を経たうえで、団体への助成金交付に活用しています。②分野希望寄附は今回、一定程度統合し、スケールメリットを活かし活用したいと考えています。③希望なし寄附については、人材バンク事業、会計、労務等講座（支援センター委託）、スタートアップ支援助成及び団体希望寄附助成の不足分に活用しています。
- ・ ②分野希望寄附については、寄附者の意向に沿うため、団体が助成金申請時に申請事業がどの分野に該当（複数分野可）するかを明示できるように申請書の様式を修正し、スタートアップ支援助成や公益性のある事業で団体希望寄附助成の不足分に該当分野の寄附を活用したいと考えます。
- ・ ②分野希望寄附、③希望なし寄附に寄附があつまるように、寄附の活用方法の周知について、現行のホームページに加え、ファンド通信（紙媒体：助成金交付事業と寄附者の紹介）で寄附者へお知らせと感謝を伝えます。

併せて、横浜市市民活動支援センターでパネル展示を開催し、よこはま夢ファンドを知らない不特定多数の人へも夢ファンドと助成金の使途について周知します。

協議事項2：登録要件の変更について

【検討内容1：横浜市で公益的な活動を行っている任意団体、自治会・町内会、株式会社（CSR部門）も登録可能とするか。】

審査における透明性、公平性の担保及び対外的な説明責任があることから、NPO法人としたいと考えます。

【検討内容2：「主たる事務所は横浜市内であること」に「従たる事務所」も含めるか。】

現状の登録要件である、「主たる事務所の所在地が横浜市内にあること」を広げ、「従たる事務所」も含めるか、さらに「活動拠点が横浜市内にあること」も含めるかについては、各委員の意見が分かれていることから、引き続き検討します。

- ・ 推進委員からの意見にもあるとおり、現在は法人の社員や利害関係人から閲覧の請求があった場合は、従たる事務所においても主たる事務所と同様の書類の備置き・閲覧が義務付けられていることから、市民への情報開示は担保されています。
- ・ 主たる事務所でも従たる事務所でも市内に事務所（市内に活動拠点がある団体）が無く

ても、助成事業が不特定多数の市民にサービス提供されているかどうか（公益性があるかどうか）を、事業内容や実態で審査する必要があります。

- ・ 夢ファンドは、財政基盤を整えたい市内 NPO 法人の支援に寄与していると考えます。
- ・ 本市が所轄庁でない法人に対して助成金を交付した場合でも、申請内容と事実が異なった場合や違法行為があった場合などの際には、規則及び要綱に基づき、助成金返還等、適正な対応をすることとします。
- ・ 従たる事務所の要件は、主たる事務所の要件と同様に形式要件で登録の審査が可能であると考えます。

協議事項 3：(新規事業) ※事務局案別紙

下記を踏まえた、NPO の総合的な支援については、支援センター事業で実施します。

- ・ NPO 基盤整備のためのフォローアップ、レベルアップ、任意団体から NPO 法人になるためのスキルアップの仕組み
- ・ アドバイザー派遣における支援内容の共有化、士業の人たちのノウハウの蓄積
- ・ 課題を抱える活動団体が集まり、情報共有・意見交換できる場の設定（会計ソフト等、NPO に役立つ情報の研究会、税理士等にも NPO 法人の事を理解してもらう機会も含む）

協議事項 4・5：人材バンク事業の拡充及び名称変更について

推進委員及び部会委員の意見及び支援センターとの意見交換を踏まえ、人材バンク事業の派遣回数を 9 回から 30 回にしたいと考えます。

また、同一団体に対し 3 回までの派遣を可能とし、段階的に課題解決の支援ができるようにします。なお、その際の団体負担額は、1 回目：5 千円、2 回目：7 千円、3 回目：1 万円と段階的に設定します。

- ・ 専門家の派遣については、ニーズの高い税理士が中心になると考えますが、現行の社会保険労務士及び経験者も継続し、団体等におけるスタッフの雇用、社会保険等の労務に関するアドバイス等について対応します。

アドバイザーは税理士が中心とはなりますが、社会保険労務士や経験者の派遣もできること、事業名で事業内容を分かりやすくしたいことの原因から、次のとおり事業名を変更したいと考えます。（旧名称：横浜市市民活動支援人材バンク事業）

- ・ 横浜市市民活動支援専門アドバイザー派遣事業
- ・ 横浜市市民活動支援会計税務等アドバイザー派遣事業
- ・ 横浜市市民活動支援アドバイザー派遣事業

協議事項 6：寄附付き自動販売機の設置について（新規事業）

定期的な寄附も見込めることから、横浜市市民活動支援センターの自動販売機で仕組み等を把握、検証した後、他の自動販売機にも広げていくことを検討したいと考えます。

また、災害などの緊急時に、飲料を誰でも簡単に無料で取り出すことができる災害時対応自動販売機の導入も併せて検討、検証します。

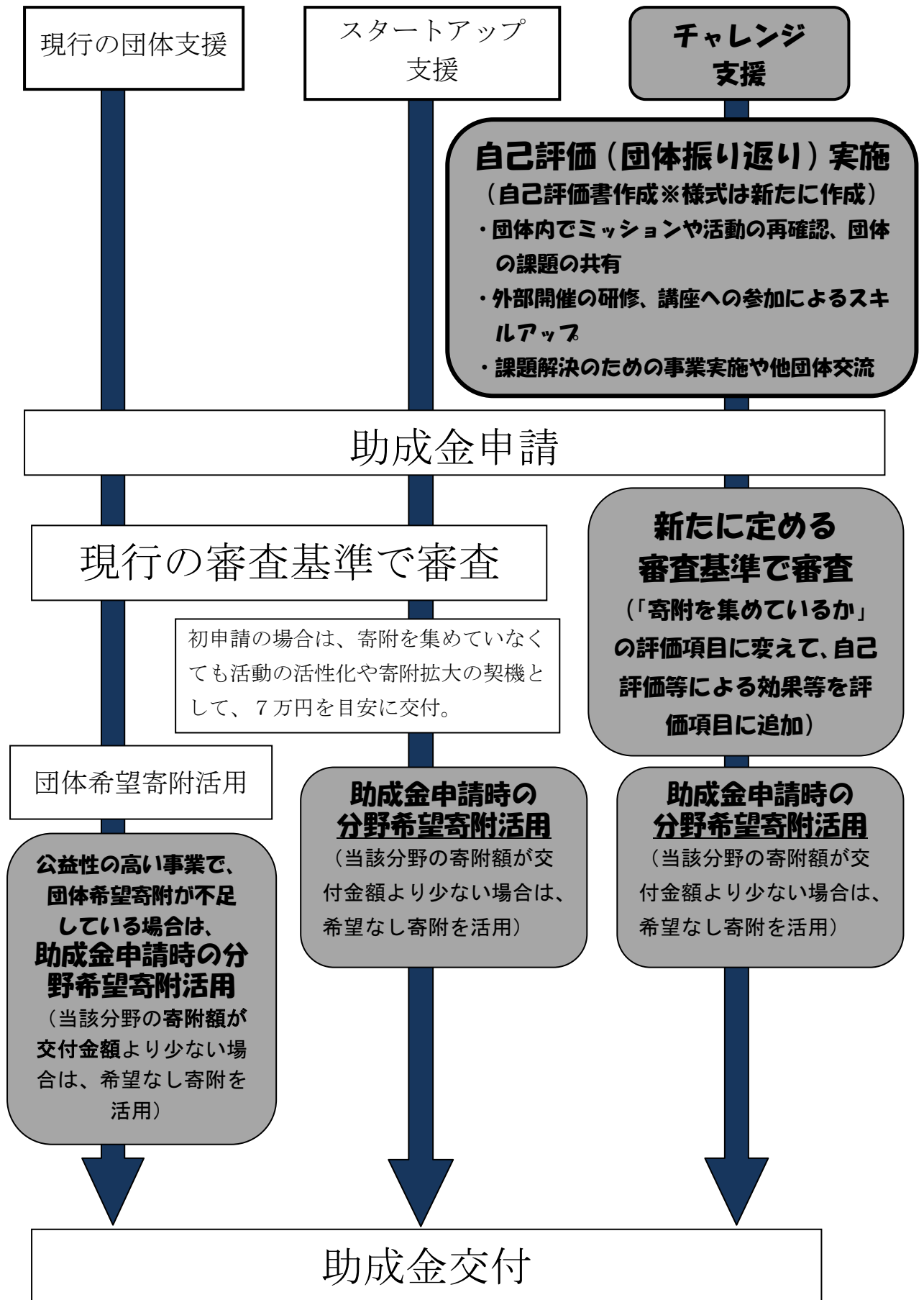
協議事項1：希望寄附分野の統合について

【現行】	➡	【変更後】
1 保健・医療	➡	1 保健・医療・福祉・子ども 1 保健・医療 2 福祉 12 子どもの健全育成
2 福祉		
3 生涯学習・社会教育		
4 まちづくり		
5 文化・芸術		2 まちづくり 4 まちづくり 7 環境 8 災害救援・地域安全 17 市民活動支援 新 農山漁村又は中山間地域振興
6 スポーツ・レクリエーション		
7 環境		
8 災害救援・地域安全		
9 国際交流・国際協力		
10 人権・平和		
11 男女共同参画		
12 子どもの健全育成		3 文化・スポーツ 3 生涯学習・社会教育 5 文化・芸術 6 スポーツ・レクリエーション 14 科学技術
13 情報化社会		
14 科学技術		
15 経済活動・消費者の保護		
16 職業能力開発・雇用機会拡充		4 国際・人権・平和 9 国際交流・国際協力 10 人権・平和 11 男女共同参画
17 市民活動支援		
18 その他		
	5 経済・観光振興 13 情報化社会 15 経済活動・消費者の保護 16 職業能力開発・雇用機会拡充 新 観光振興	

【新たな希望分野一覧】

- 1 **保健・福祉・子ども**
(保健・医療、福祉、子どもの健全育成)
- 2 **まちづくり・環境**
(まちづくり、環境、災害救援・地域安全、市民活動支援、農山漁村又は中山間地域振興)
- 3 **文化・スポーツ**
(生涯学習・社会教育、文化・芸術、スポーツ・レクリエーション、科学技術)
- 4 **国際・人権・平和**
(国際交流・国際協力、人権・平和、男女共同参画)
- 5 **経済・観光振興**
(情報化社会、経済活動・消費者の保護、職業能力開発・雇用機会拡充、観光振興)

【協議事項3 (新規事業案)】



よこはま夢ファンドの寄附の新たな活用について（委員意見要旨）

協議事項1：希望寄附分野の統合について**【検討内容】**

分野希望寄附を活用するため、分野を一定程度統合し、スケールメリットを活かす。

【委員意見】

- 少額希望寄附の活用を考えると、分野を統合することでよい。設立及び夢ファンドに登録する際、分野を選択するが、助成金は事業に対してなので、助成事業に対して、どの分野なのかを明示する必要がある。その方が、寄附者の意向に沿うのでは。
- 寄附者の想いと活用のメリットを考えると、用途を統合することはやむを得ない。
- 分野統合及び現行のまま分野を細分化すること、どちらにも一長一短があるように思う。分野を統合することに反対ではないが、寄附者の意思がよりの確に反映されるという点をもっとも重要と考えるので、寄附金の用途についての情報公開を進めてほしい。
- 分野指定の寄附は、指定分野で活用される必要がある。活用を促すために分野を統合することは望ましい。しかし、活動団体からすると分野という括りは、あまり意味があると思えない。団体希望寄附、希望なし寄附の2つにするのが良い。
- 明確な目的で寄附する人以外は、寄附金を有効に使ってもらいたいと漠然と思っていると思う。詳細な分類は示し、大分類を用意することは、寄附者にとってわかりやすい。現在、活用する仕組みがないので、早急に対応する必要がある。市民の志を活かしていくために工夫していくことは良いことだと考える。
- 分野希望寄附が活用しにくいなら統合しても良いが、寄附の活用は要検討。

協議事項2：登録要件の変更について**【検討内容1】**

市内で公益的な活動を行っている、任意団体等も登録可能とするか。

【委員意見（検討内容1）】

- 現状どおり、NPO法人のみでよい。
- 任意団体は反対。法人格か同等の格付けがないと、責任関係が曖昧になる。
- NPO法人が提出している書類と同等のものがあれば活動実績は確認できる。
規約等で責任体制や予算規模が明確となっており、公益的な活動が行っているのであれば任意団体を登録要件に入れても良いと思う。ただし、夢ファンド以外で任意団体への支援がカバーできているなら要件に入れなくて良い。

【検討内容2】

登録要件のNPO法人格の有無はそのまま、「主たる事務所は横浜市内であること」に「従たる事務所」も含めるか。また、他の登録要件はこのままで良いか。

【委員意見（検討内容2）】

- 現状どおり「主たる事務所」のみの登録要件でよい。
- 「従たる事務所」を含めて、市内に事務所を置くNPO法人としたい。事務局案のよう

に「実質的な活動が見える範囲」を明確にするためには、主たる事務所が市内にある団体であっても、実際の活動を確認する必要がある。

また、NPO 法の改正により、主たる事務所に加えて、従たる事務所にも「社員その他利害関係人から事業報告書等の閲覧の請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧させなければならない」となっているため、市民への情報開示は担保される。横浜市が所轄庁である NPO 法人とそれ以外の NPO 法人とで、横浜市や市民に対する情報公開に差が出ると思われたい。

- NPO 法人以外にまで広げる意味はあると思いますが、公益性の審査を透明性・公平性をもって行うことを勧案すると、現行通り、NPO 法人に限ってよいと思う。
- 従たる事務所であっても、横浜市にあればよい。実態として横浜市民にサービスが提供されているかどうかを見る必要はある。
- 「主たる事務所」は横浜市にあるべき。「従たる事務所」が市内にあっても、登録はできないようにした方がよい。これは、横浜市民から集まった資金であり、使途は横浜市民に還元されるべきである。他の市町村に事務所があり、活動が市内であっても、「夢ファンド」資金の性質や税金等の関わりから、市民活動として明確な位置づけが必要。
- 事業助成なら、事業内容が重要であるため、主たる事務所でも従たる事務所でも良い。
- 事務所の所在地より、活動場所が市内にある方が重要。市内に活動拠点がある団体は、市内で活動している第三者（企業や自治会等）の組織の長から活動を保証する推薦状を必須とし、登録を認める。
- 審査が可能であれば、従たる事務所を加えるのは問題ない。事務所の場所はあまり事業に関係ない。
- 市内での活動実績が大切。イベント等では実態確認は難しいので条件は要検討。
- 活動拠点がある場合は、審査時に確認し、登記等は必要とせず、登録は可能。

協議事項 3 : (新規事業)

【検討内容】

新規事業

【委員意見】

- 団体の基盤強化の支援は重要。寄附が集められないことを理由に申請をあきらめた団体もあると思うので、対象を不交付団体だけに狭めないほうがよい。
一定期間の伴走支援は、団体側からすると有意義で魅力的ですが、伴走となるとスキル以外にも時間・労力も大きく、予算的にそれを担う団体・人がいるのか気になる。
- 基盤整備のためのフォローアップや、任意団体から NPO 法人になるためのスキルアップ等に活用できる仕組みが良い。
- 寄附金を活用して、公益性の高い活動を行っている団体を応援していく意味はある。事業応援ではなく、団体基盤のレベルアップのために活かせればと思う。ただし、組織基盤強化というと、組織マネジメント、広報戦略など、経営コンサルタント的な支援に頼りがちで、そこに問題を感じる。市→中間支援→活動団体というベクトルでの支援では、「教える-教わる」という関係性の中で、活動団体がエンパワメントされにくい。市がプラット

フォームを作り、課題を抱える団体が集まり、情報共有・意見交換する過程で、気づきや学びがあり、組織の基盤が強化されるというように、活用できればと思う。

- どのような団体を支援するのか、明確にする必要がある。現在、「団体に希望する寄附を集めることができているか」という評価基準があるため、ある程度体力がある団体に限定される。寄附を集められない団体に対象を広げると、潜在的な対象団体の数が増えるため、どのように「重点」を設定するのかが問題。

団体の運営基盤強化を行うのであれば、全く新しい仕組みを考えた方が良い。

寄附を集められない団体への支援を目的とするならば、「ファンド」であるから資金的な援助を行うという考え方を超えて、少額の資金援助に加え、市や支援センターによるカネ以外の経営資源の援助を加えた助成にするのもよいと思う。

- 団体希望寄附を集めることが、団体が支持されていると言いきれるか？活動に資金集めをしているので、団体希望寄附をお願いすることと、事業評価の連動がすっきりしない。新たな夢ファンドの概要を作成し、団体周知が必要。10 団体以上に対応できるぐらいのスケール感で実施しないと、特定の団体にしか補助しないようにみえる。
- 運営基盤の強化という意味で、交付対象となっても金額の小さいところも含めて、選定してはどうか。

選定基準は難しいが、事業の継続性や組織基盤、事業継続年数等を参考に、地道に活動しているが資金集めはうまくない組織を救いたい。

- 団体がミッションを振り返り、自己評価を行った場合に、分野希望寄附から助成。現行の助成金とは異なる条件を付け審査を行う。
- 中間支援組織にお金が流れるのは反対。
- 分野希望寄附を活用するのであれば、分野に特化して助成をしても良いと思う。
- 助成金申請時に一つの分野を指定するのは難しい。一つの分野で事業を実施するとは限らない。複数分野で事業申請があった時の対応をどうするか要検討。
- 団体希望寄附を残すなら、助成回数、助成金交付総額の上限等、何か制限を付けた方が良い。行政の制度を活用し続けても団体の運営強化にはならない。
- 分野に特化し事業申請してもらい、例えば 3 年間は助成する。3 年間、成果の確認やフォローアップをしていく。

協議事項 4 : 人材バンク事業の拡充について

【検討内容】

回数：同一団体に対し 2 回→3 回（段階的に課題解決ができるように上限回数を増やす。）

区分：より総合的な相談に応えられるようなアドバイザー派遣を検討。

団体負担金：1 回：5 千円、2 回：7 千円、3 回：1 万円と負担額を段階的に設定する。

【委員意見】

- 事務局案に賛成。相談機会の拡充と相談内容支援の焦点化は必要と考える。
- 回数を増やすこと、派遣を税理士中心とすることに異論はない。ただし、単に、支援を必要とする団体と「士」業の人達とを結びつけるだけでは、事業の広がりが無い。他団体と支援内容を共有化するとか、「士」業の人達のノウハウの蓄積とか、工夫が必要。回数を

増やすだけでは、潜在的に支援を必要とする団体に応えることは不可能。

- 新規事業等で総合的な支援ができるなら、税理士派遣中心とでよい。
- 回数を増やすことはいい。団体負担は段階を踏んで上げていく方式で、その結果負担が増えるのは仕方ない。
- 区分は、現在経営系や経営管理だけだが、活動内容や理念、組織化などにも広げられないか。大学の先生方を大いに活用すべき。大学に呼びかけて、引き受けてくれる先生方を公募し、登録制にする等が考えられる。
- 団体負担額の傾斜は内容によっては必要。
- 弁護士も無料相談をやっているのに、謝金を払う必要があるか。税理士も仕事を得るきっかけとなるなら、無料で相談を受けて欲しい。
- 会計講座等が年1回とかでは少ない。2か月か四半期に1回くらい開催し、そこで解決できれば、人材バンクの拡充は必要ないのではないか。
- 講座を充実できるなら、税理士相談まで行政がフォローする必要はない。
講座後の個別相談にまで行政が資金援助していたら、団体は育たない。団体自身で考えるという機会を奪っている。

協議事項5：人材バンク事業の名称変更について

【検討内容】

事業名で、事業内容を分かりやすくするため、事業名の変更。

【委員意見】

- 現行案どおりで異議なし。事務局案に賛成。
- 「NPO 会計税務アドバイザー派遣事業」などにしてはどうか。
- 横浜市市民活動（支援）専門アドバイザー派遣事業はどうか。
- 「アドバイザー派遣」という言い方では NPO 法人が格下に感じる。

協議事項6：寄附付き自動販売機の設置について（新規）

【検討内容】

夢ファンドの基盤強化を目的として、寄附付き自動販売機を導入の検討

【委員意見】

- 事務局案に賛成。横浜市市民活動支援センターで検証してみたら良い。
- 賛成。沖縄で障害を持った子供たちの絵を、自販機の空いているスペースに展示した実績があります。いろいろと工夫しながら、広げていきましょう。
- 防災用自販機も推進したい。設置の検討をしてみたらどうか。

よこはま夢ファンドの寄附の新たな活用について（委員意見要旨）

協議事項1：希望寄附分野の統合について

【検討内容】

分野希望寄附を活用するため、分野を一定程度統合し、スケールメリットを活かす。

【委員意見】

- 少額希望寄附の活用を考えると、分野を統合することでよい。設立及び夢ファンドに登録する際、分野を選択するが、助成金は事業に対してなので、助成事業に対して、どの分野なのかを明示する必要がある。その方が、寄附者の意向に沿うのでは。
- 寄附者の想いと活用のメリットを考えると、使途を統合することはやむを得ない。
- 分野統合及び現行のまま分野を細分化すること、どちらにも一長一短があるように思う。分野を統合することに反対ではないが、寄附者の意思がよりの確に反映されるという点をもっとも重要と考えるので、寄附金の使途についての情報公開を進めてほしい。
- 分野指定の寄附は、指定分野で活用される必要がある。活用を促すために分野を統合することは望ましい。しかし、活動団体からすると分野という括りは、あまり意味があると思えない。団体希望寄附、希望なし寄附の2つにするのが良い。
- 明確な目的で寄附する人以外は、寄附金を有効に使ってもらいたいと漠然と思っていると思う。詳細な分類は示し、大分類を用意することは、寄附者にとってわかりやすい。現在、活用する仕組みがないので、早急に対応する必要がある。市民の志を活かしていくために工夫していくことは良いことだと考える。
- 分野希望寄附が活用しにくいなら統合しても良いが、寄附の活用は要検討。

協議事項2：登録要件の変更について

【検討内容1】

市内で公益的な活動を行っている、任意団体等も登録可能とするか。

【委員意見（検討内容1）】

- 現状どおり、NPO 法人のみでよい。
- 任意団体は反対。法人格か同等の格付けがないと、責任関係が曖昧になる。
- NPO 法人が提出している書類と同等のものがあれば活動実績は確認できる。
規約等で責任体制や予算規模が明確となっており、公益的な活動が行っているのであれば任意団体を登録要件に入れても良いと思う。ただし、夢ファンド以外で任意団体への支援がカバーできているなら要件に入れなくて良い。

【検討内容2】

登録要件の NPO 法人格の有無はそのまま、「主たる事務所は横浜市内であること」に「従たる事務所」も含めるか。また、他の登録要件はこのままで良いか。

【委員意見（検討内容2）】

- 現状どおり「主たる事務所」のみの登録要件でよい。
- 「従たる事務所」を含めて、市内に事務所を置く NPO 法人としたい。事務局案のよ

うに「実質的な活動が見える範囲」を明確にするためには、主たる事務所が市内にある団体であっても、実際の活動を確認する必要がある。

また、NPO法の改正により、主たる事務所に加えて、従たる事務所にも「社員その他利害関係人から事業報告書等の閲覧の請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧させなければならない」となっているため、市民への情報開示は担保される。横浜市が所轄庁であるNPO法人とそれ以外のNPO法人とで、横浜市や市民に対する情報公開に差が出るとは思われない。

- NPO法人以外にまで広げる意味はあると思いますが、公益性の審査を透明性・公平性をもって行うことを勘案すると、現行通り、NPO法人に限ってよいと思う。
- 従たる事務所であっても、横浜市にあればよい。実態として横浜市民にサービスが提供されているかどうかを見る必要はある。
- 「主たる事務所」は横浜市にあるべき。「従たる事務所」が市内にあっても、登録はできないようにした方がよい。これは、横浜市民から集まった資金であり、用途は横浜市民に還元されるべきである。他の市町村に事務所があり、活動が市内であっても、「夢ファンド」資金の性質や税金等の関わりから、市民活動として明確な位置づけが必要。
- 事業助成なら、事業内容が重要であるため、主たる事務所でも従たる事務所でも良い。
- 事務所の所在地より、活動場所が市内にある方が重要。市内に活動拠点がある団体は、市内で活動している第三者（企業や自治会等）の組織の長から活動を保証する推薦状を必須とし、登録を認める。
- 審査が可能であれば、従たる事務所を加えるのは問題ない。事務所の場所はあまり事業に関係ない。
- 市内での活動実績が大切。イベント等では実態確認は難しいので条件は要検討。
- 活動拠点がある場合は、審査時に確認し、登記等は必要とせず、登録は可能。

協議事項3：(新規事業)

【検討内容】

新規事業

【委員意見】

- 団体の基盤強化の支援は重要。寄附が集められないことを理由に申請をあきらめた団体もあると思うので、対象を不交付団体だけに狭めないほうがよい。
一定期間の伴走支援は、団体側からすると有意義で魅力的ですが、伴走となるとスキル以外にも時間・労力も大きく、予算的にそれを担う団体・人がいるのか気になる。
- 基盤整備のためのフォローアップや、任意団体からNPO法人になるためのスキルアップ等に活用できる仕組みが良い。
- 寄附金を活用して、公益性の高い活動を行っている団体を応援していく意味はある。事業応援ではなく、団体基盤のレベルアップのために活かせればと思う。ただし、組織基盤強化というと、組織マネジメント、広報戦略など、経営コンサルタント的な支援に頼りがちで、そこに問題を感じる。市→中間支援→活動団体というベクトルでの支援では、「教える-教わる」という関係性の中で、活動団体がエンパワメントされにくい。市

がプラットフォームを作り、課題を抱える団体が集まり、情報共有・意見交換する過程で、気づきや学びがあり、組織の基盤が強化されるというように、活用できればと思う。

- どのような団体を支援するのか、明確にする必要がある。現在、「団体に希望する寄附を集めることができているか」という評価基準があるため、ある程度体力がある団体に限定される。寄附を集められない団体に対象を広げると、潜在的な対象団体の数が増えるため、どのように「重点」を設定するのが問題。

団体の運営基盤強化を行うのであれば、全く新しい仕組みを考えた方が良い。

寄附を集められない団体への支援を目的とするならば、「ファンド」であるから資金的な援助を行うという考え方を超えて、少額の資金援助に加え、市や支援センターによるカネ以外の経営資源の援助を加えた助成にするのもよいと思う。

- 団体希望寄附を集めることが、団体が支持されていると言いきれるか？活動に資金集めをしているので、団体希望寄附をお願いすることと、事業評価の連動がすっきりしない。新たな夢ファンドの概要を作成し、団体周知が必要。10 団体以上に対応できるぐらいのスケール感で実施しないと、特定の団体にしか補助しないようにみえる。
- 運営基盤の強化という意味で、交付対象となっても金額の小さいところも含めて、選定してはどうか。

選定基準は難しいが、事業の継続性や組織基盤、事業継続年数等を参考に、地道に活動しているが資金集めはうまくない組織を救いたい。

- 団体がミッションを振り返り、自己評価を行った場合に、分野希望寄附から助成。現行の助成金とは異なる条件を付け審査を行う。
- 中間支援組織にお金が行くのは反対。
- 分野希望寄附を活用するのであれば、分野に特化して助成をしても良いと思う。
- 助成金申請時に一つの分野を指定するのは難しい。一つの分野で事業を実施するとは限らない。複数分野で事業申請があった時の対応をどうするか要検討。
- 団体希望寄附を残すなら、助成回数、助成金交付総額の上限等、何か制限を付けた方が良い。行政の制度を活用し続けても団体の運営強化にはならない。
- 分野に特化し事業申請してもらい、例えば3年間は助成する。3年間、成果の確認やフォローアップをしていく。

協議事項4：人材バンク事業の拡充について

【検討内容】

回数：同一団体に対し2回→3回（段階的に課題解決ができるように上限回数を増やす。）

区分：より総合的な相談に応えられるようなアドバイザー派遣を検討。

団体負担金：1回：5千円、2回：7千円、3回：1万円と負担額を段階的に設定する。

【委員意見】

- 事務局案に賛成。相談機会の拡充と相談内容支援の焦点化は必要と考える。
- 回数を増やすこと、派遣を税理士中心とすることに異論はない。ただし、単に、支援を必要とする団体と「士」業の人達とを結びつけるだけでは、事業の広がりが無い。他団体と支援内容を共有化するとか、「士」業の人達のノウハウの蓄積とか、工夫が必要。

回数を増やすだけでは、潜在的に支援を必要とする団体に応えることは不可能。

- 新規事業等で総合的な支援ができるなら、税理士派遣中心とでよい。
- 回数を増やすことはいい。団体負担は段階を踏んで上げていく方式で、その結果負担が増えるのは仕方ない。
- 区分は、現在経営系や経営管理だけだが、活動内容や理念、組織化などにも広げられないか。大学の先生方を大いに活用すべき。大学に呼びかけて、引き受けてくれる先生方を公募し、登録制にする等が考えられる。
- 団体負担額の傾斜は内容によっては必要。
- 弁護士も無料相談をやっているのに、謝金を払う必要があるか。税理士も仕事を得るきっかけとなるなら、無料で相談を受けて欲しい。
- 会計講座等が年1回とかでは少ない。2か月か四半期に1回くらい開催し、そこで解決できれば、人材バンクの拡充は必要ないのではないか。
- 講座を充実できるなら、税理士相談まで行政がフォローする必要はない。
講座後の個別相談にまで行政が資金援助していたら、団体は育たない。団体自身で考えるという機会を奪っている。

協議事項5：人材バンク事業の名称変更について

【検討内容】

事業名で、事業内容を分かりやすくするため、事業名の変更。

【委員意見】

- 現行案どおりで異議なし。事務局案に賛成。
- 「NPO 会計税務アドバイザー派遣事業」などにしてはどうか。
- 横浜市市民活動（支援）専門アドバイザー派遣事業はどうか。
- 「アドバイザー派遣」という言い方ではNPO 法人が格下に感じる。

協議事項6：寄附付き自動販売機の設置について（新規）

【検討内容】

夢ファンドの基盤強化を目的として、寄附付き自動販売機を導入の検討

【委員意見】

- 事務局案に賛成。横浜市市民活動支援センターで検証してみたら良い。
- 賛成。沖縄で障害を持った子供たちの絵を、自販機の空いているスペースに展示した実績があります。いろいろと工夫しながら、広げていきましょう。
- 防災用自販機も推進したい。設置の検討をしてみたらどうか。